

同志社大学

—京田辺キャンパス—



主 催:公益財団法人どうぶつ基金
申請者:同志社大学
日 程:平成26年8月27日(手術実施日)

協 力:Do-CAT(同志社大学猫サークル)
KASP(京都動物福祉サークル連盟)
RitsCat(立命館大学猫の会)
Cat-Ch(京都大学猫サークル)

地域の現状と特徴

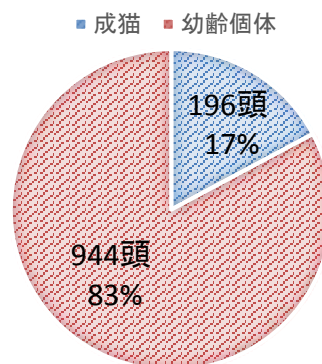
【京都府の現状】

区分 自治体名	猫									
	引取り数				処分数					
	飼い主から		所有者不明		返還数	返還数 のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数 のうち 幼齢個体	殺処分数	殺処分数 のうち 幼齢個体
	成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体						
京都府 (京都市を除く)	160	498	41	517	2	-	83	-	1,140	944

注) - は成熟個体と幼齢個体の区分をしていない場合であり、幼齢個体数は、成熟個体に計上している。

殺処分数の割合(京都府)

京都府(京都市を除く)では平成25年度1年間で1,140匹の猫を殺処分している。その内、仔猫は944匹であり、殺処分される猫の83%が仔猫という現状がある。



【同志社大学の申請時の状況】

同志社大学京田辺キャンパスは、1986(昭和61)年、京都府南部の田辺町(現在の京田辺市)に開校したキャンパスで、なだらかな丘陵地に790,000㎡もの広大な敷地を有し、約9,000人が学生生活を送っています(HPから引用)。

約40~50匹近くのネコが住み着き、ここ最近も繁殖時期をむかえ数が増えている状況である。学内において糞尿の被害や餌となるものを探すためゴミをばらまくことでキャンパスが乱雑となり困惑をしている状況である。(申請書より引用)

プロジェクト経緯と実施内容

殺処分を行わずキャンパス環境を改善するためにも、これ以上ネコが増えることをまずは防ぎたいと考え、TNRを実施させていただきたく、申請するものである(申請書より引用)。同志社大学からの申請を受け、どうぶつ基金主催、同志社大学共催、同志社大学猫サークルDoCatおよび他大学の大学猫サークル、一般ボランティアの協力によって実施する運びとなった。

協働体制

【公益財団法人どうぶつ基金】

佐上邦久理事長・佐上悦子

【獣医師】

山口獣医 酒井獣医 千田獣医(ボランティア参加) 山本獣医(ボランティア参加)

【申請者】

同志社大学

【協力団体】

Do-CAT(同志社大学猫サークル)・ KASP(京都動物福祉サークル連盟)
RitsCat(立命館大学猫の会) ・ Cat-Ch(京都大学猫サークル)

【実施内容】

- 1) 打ち合わせ会議 8月8日
- 2) 出張手術 8月27日
- 捕獲実施期間 8月25～27日
- 放猫 8月28日

手術会場及び猫保管場

手術会場:同志社大学京田辺キャンパス

京田辺別館ミーティングルームB

猫の保管:京田辺別館ミーティングルームE・F・G



手術会場



手術が終わった
猫の一時保管場所

準備日程及び人員

日程	実施内容	人員		
		Do-Cat学生 学生ボランティア	一般ボランティア	どうぶつ基金
8月25日(月)	捕獲	7	2	0
8月26日(火)	捕獲	6	2	0
8月27日(水)	捕獲 一斉手術	12	3	スタッフ 2 獣医師 4
8月28日(木)	放猫	4	0	0

使用捕獲器台数

所持者	捕獲器台数
立命館大学(RitsCat)	1
ボランティア	8
Do-Cat (購入)	1
アニマルサークル	20
どうぶつ基金	15
合計	45

手術集計

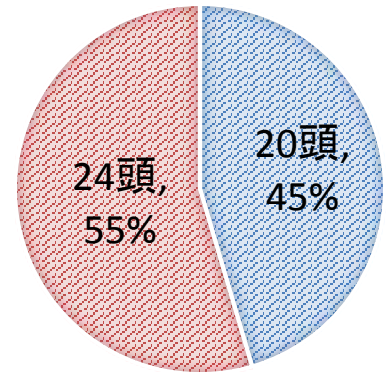
TNR数

	オス	メス	耳カットのみ	計
8月27日	20	24	0	44

上記の他、子猫10頭を学生と有志ボランティアが協働し保護治療のうえ、後日新しい飼い主に譲渡を行った。

手術割合

■ オス ■ メス ■ 手術済み



【処置内容】

- 1) 不妊去勢手術
- 2) 耳カット
- 3) ワクチン
- 4) ノミダニ駆除(レボリューション)
- 5) その他: 怪我治療



手術の様子



捕獲器を設置する学生

手術日スケジュール

8月27日(水)	
8:45	朝礼
9:00	手術開始
12:15	昼食
13:15	手術再開
17:00	手術終了
17:30	撤収完了・終礼

執刀医



どうぶつ基金顧問
山口武雄獣医師



酒井獣医師



千田獣医師
(ボランティア参加)



山本獣医師
(ボランティア参加)

一斉TNRの様子



捕獲作業の様子



捕獲された猫の
保護部屋の様子



手術会場の様子

一斉TNRの様子



術後ケアの様子。
手術が終わった
猫にシラミ取り薬
を付けます。



手術中に猫が戻
る捕獲器を綺麗
にします。



手術翌日に元の
場所に猫をリター
ンします。

同志社大学TNRエピソード

初めての大学当局からの申請

今回の同志社大学での一斉TNRは大学からの申請でした。同志社の学生からの相談がきっかけでしたが、学生が大学に話を通し、大学からどうぶつ基金に正式に申請が入り実施に至りました。

多くの協働を生んだ一斉TNR

同志社大学猫の会は発足したてであったことから、京都の動物福祉サークル連盟KASPを通じて、立命館大学猫の会RitsCat、京都大学猫サークルCAT-Chの学生が捕獲から放猫まで協力してくれていました。また、三重県伊賀保健所から行政職員の獣医さんが2名ボランティア参加してくださいました。

子猫10匹は学生とボランティアが協力して里親に

生後2ヶ月未満の子猫が12匹保護されました。外部ボランティアの協力をえて12匹の子猫を入院させたのち、入院後すぐにな亡くなってしまった2頭以外の10頭が学生によって新しい飼い主に譲渡されました。





同志社大学 —京田辺キャンパス—

主 催:公益財団法人どうぶつ基金
申請者:同志社大学
日 程:平成26年8月27日(手術実施日)

協 力:Do-CAT(同志社大学猫サークル)
KASP(京都動物福祉サークル連盟)
RitsCat(立命館大学猫の会)
Cat-Ch(京都大学猫サークル)